

第6学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月25日（金） 5校時

児 童 6年1組 男13名 女9名 計22名

授 業 者 中釜 けい子

1 主題名 つながる命 （D 生命の尊さ）

2 教材名 その思いを受けついで（「新・みんなのどうとく 6」 学研）

3 主題設定の理由

（1）児童について

児童は、着衣泳の学習の際、消防士の方から水難事故から命を守る方法や人命救助の話を聞き、生命がかけがえのないものだということを学んだ。また、社会や総合の学習では、戦争で多くの犠牲を払ったことを知り、「死」についても理解している。学習を通しての振り返りからも、生命が大切なものであることは理解できている。

しかし、なぜ生命が大切なのかについて考えるまでには至っていない。

このことから、自分の生命は自分だけのものではなく、他の人の様々な思いがあることについて考え、生命が脈々と受け継がれてきたことに気付かせる指導が必要であると考えた。そして、自分の生命は受け継がれた尊いものであり、受け継がれた生命は、かけがえのないたった一つのものであるから大切にしていこうとする心情を育んでいきたいと考える。

（2）道徳的価値について

学習指導要領第5学年及び第6学年の内容の「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」は、「生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」である。これは、生命ある全てのものをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることに関する内容項目である。この内容項目は、次のように発展していく。

低学年	中学年	高学年	中学校
生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

生命の尊さは幾度となく強調されなければならないと考える。

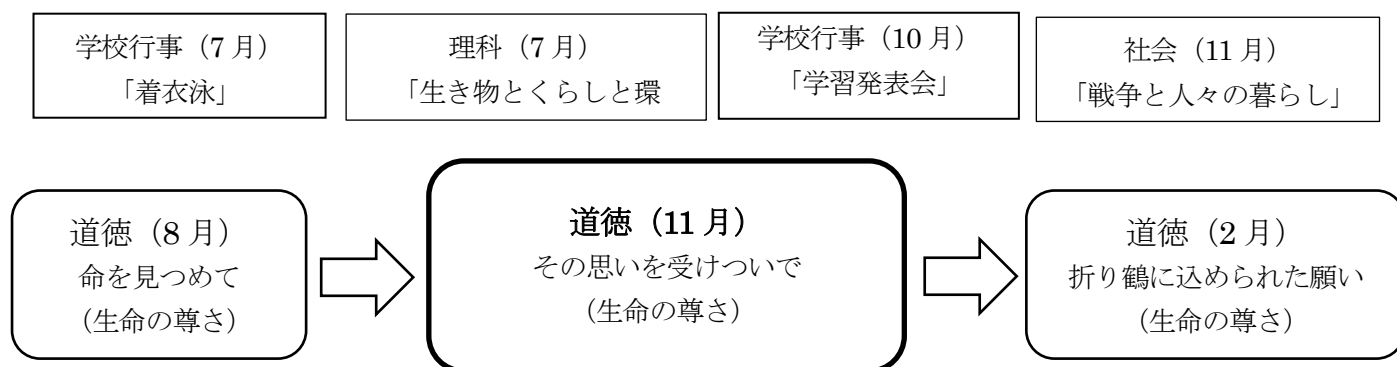
そのためには、たった一つしかない大切な命だということや、生命が脈々と受け継がれてきたものであること、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守られ、育まれている尊いものとして大切にしようことに気付かせることが大事であると考えます。

(3) 教材について

本教材は、生きている時も最期の時さえも、孫への愛情と想いを伝え続けた祖父と、大切な家族の死を乗り越え、その想いを受け継いで力強く生きていこうとする「ぼく」の姿を描いた感動的な話である。祖父の深い愛情を感じ、大好きな祖父の死を乗り越え、前向きに生きていこうとする「大地」の気持ちを考えさせることを通して、生命のつながりを感じ、自他の生命を大切にしていきたいという気持ちを実感させたい。

自分の命は一人だけのものではなく、周りのみんなにとっても大事な命であることや大切な人から受け継いだ限りあるたった一つの生命だからこそ、前を向いて精一杯生きることの尊さに気付かせるとともに、自他の生命を尊重しようとする心情を高めることができる教材である。

4 主な各教科等との関連



5 本時の指導

(1) ねらい

しわくちゃんののし袋と中に書かれた手紙から、祖父の温かく強い想いを受け取った「ぼく」の気持ちを多面的・多角的に考えることを通して、生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることに気づき、生命を尊重しようとする心情を高める。

(2) 展開

階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の意図・留意点
つかむ5分	1 教材への関心を高める。 ○これは、「のし袋」と言います。もらったことがありますか。	・お年玉でお金をもらった。	・のし袋は、お祝いや大事な時に使うものだということを押さえる。 ・ぴんとはられたのし袋を見せ、教材への関心を高める。

ふかめる 30分	2 教材を基に，話し合う。 ○大地は毎日どんな思いで，じいちゃんのところに通い続けたのでしょうか。 ○「瞬時に察した」のに，「きっとよくなるよ。」と言ったのはなぜでしょう。 ○しわくちやの「のし袋」には，おじいちゃんのどんな思いが込められているのだろう。 ◎その強い思いを受けついで，大地はこれからどのように生きていくだろう。	・良くなって欲しい。 ・元気づけたい。 ・じいちゃんと一緒にいたい。 ・精一杯のことをしたい。 ・死んでほしくない。 ・生きていてほしい。 ・ぼくの声の聞くとよくなるかもしれない。 ・お見舞いに来てくれてありがとうおじいちゃんの分も生きるんだよ。 ・誕生日を祝ってあげたかったのにごめんよ。 ・ずっと大地のことを見守っているよ。 ・じいちゃんの分も一生懸命生きていく。 ・おじいちゃんを忘れないで生きていく。 ・苦しいとき，きとおじいちゃんが見てくれるから，頑張って生きていく。 ・お母さんからつながっている命を大切にしたい。 ・自分や周りの人を大切にしていきたい。	・自分ができることを一生懸命にしたい，じいちゃんと過ごす時間を大切にしたいと思う大地の心情を押さえたい。 ・死が近づいていることを察しながらも，じいちゃんを励ます大地の気持ちを考えることを通して，大地がじいちゃんを大好きだと思ふ気持ちに触れたい。 ・のし袋がしわくちやなことや枕の下に入れていた意味を考えることを通して，死期を察していたじいちゃんの大地に対する深い愛情に気付かせたい。 ・教材の題名にもどって，じいちゃんの強い思いとは，どのように生きることなのか考え生命の尊さを深めさせたい。 ・自分の考えを道徳ノートにまとめ，グループで話し合いを行い，他者理解させたい。 その後，深め合うために全体交流を行う。
みつめる 5分	3 道徳的価値の内面的自覚を深める。 ○おうちの人からの手紙を読んで感想を書く。	・私の命はつながっているんだと思った。生きていることを喜んでいる人がいるんだと思った。うれしくなった。	・一人ひとりがじっくりと手紙を読む時間を設ける。 (BGM)

ひろげ る 5 分	4 今後の実践につなぐ。 ・児童の振り返りを交流する。	・友達の振り返りを聞くこ とでより理解を深めるた めに交流させる。
--------------------	--------------------------------	---

(3) 評価の視点

- しわくちやののし袋と中に書かれた手紙から，祖父の温かく強い思いを受け取った「ぼく」の気持ちを考えることを通して，生命の尊さを深く考えていたか。
- 生命が、多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを自分との関わりで考えていたか。

(4) 板書計画

